

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社ウインドワード		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地 メゾンK1F		
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103705-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の場所が梅林公園の前で、利用者の方が散歩に行くのにも、疲れない距離です。四季の移り変わりも肌で感じる事が出来、周囲の環境がとてもよいです。又職員も定着しており、落ち着いています。職員の資格所得者も少しづつではあるが増え、どのような状況、状態の利用者の方が入所されても対応出来る力を持っていると思っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、可能な限りの自立、残存機能の維持に取り組んでいる。利用者の思いを大切に、自分で掃除機をかける利用者もある。外出する際の「行ってきます」や、帰った時の「ただいま」の挨拶は、自宅にいた時と同じように、穏やかに日々を過ごせるよう、利用者のための工夫でもある。梅林公園への散歩は、日課となっており、公園を訪れる人との様々な出会いがある。24時間の医療連携体制を整えて、職員は緊急時や、重度化時の対応を学び、支援している。管理者と職員は、日頃から自由に話し合える関係が構築されており、看取りを経験した職員へのサポートもあり、職員の定着率も良い。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」の気持ちを忘れないよう、玄関に掲げてある。管理者、職員の日常の会話にもでるぐらい、理念を実践出来ていると感じることが出来ている。	理念の掲示は、職員はもとより、訪問者にも事業所の思いを表しており、「お互い様」の思いで支援に取り組んでいる。地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域行事に積極的に参加し、地域との関係性を深めるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は、地域と繋がりを持つ為、自治会に入会し、自治会の行事に、利用者の方の状況に合わせながら、利用者の方が無理な場合は職員だけでも、可能な限り参加出来るよう心掛けている。	自治会に加入し、地域の奉仕活動、防災訓練、地元敬老会に参加している。毎日の日課である散歩をするなかで、公園を訪れる地域の人たちと挨拶を交わす交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人暮らしの人や、昼間一人で過ごしている人に、施設に遊びに来て頂けるよう町内の民生委員の方にも声掛けの協力をお願いしている。事業所としても、いつでも受け入れられるようにしているが、なかなか、実行できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の個々の状況や、ケア方法を説明させて頂き、困っていることなど相談させて頂きながら、サービスの向上に活かしている。	隔月に、行政・民生委員・職員が参加し、平日に開催している。利用者状況、課題、行事報告等について意見交換している。家族の参加や自治会、地域住民の代表の参加も依頼しているが、日程調整等課題がある。	更には、運営推進会議の議事録を整備、充実させることが期待される。また、今後も、家族、地域の代表の複数を委員として受け入れるための工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の出席時に相談させて頂いたり、状況によっては、電話などで相談している。	行政とは、困難事例や新しい情報などについて、日常的に意見交換をしたり、相談している。行政主催の研修会、連絡会議に出席し、利用者サービスの向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者 全職員が理解している。夜間は防犯の事もある為施錠している。昼夜問わず、玄関には人の出入りが分かるようセンサーをつけ、昼間の施錠は行っていない。家族の方などインターホンを押さなくても、自分の家のように出入り出来る。	身体拘束ゼロの取り組みを実践している。言葉遣いにも注意を払い、本人の意思を引き出す言葉かけを重視している。長時間座っている利用者があれば、行動制限していないか等、職員間で確認したりしている。居室の掃き出し窓、玄関の昼間の施錠は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者 全職員が常に心掛けている。言葉使い、対応の仕方、身体に触れる時など、特に注意するよう心掛けている。		

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者と一部の職員は理解している。成年後見人は今までも、利用していた方もみえ、今後も必要であれば、相談にのれる準備はある。職員に対しても学べる機会を増やしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に添って説明を行ない、質問を受けながら、理解を得ている。又改正の際は、電話でお話させて頂き、文章を郵送、来訪の際に再度説明を行ない理解 納得を得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が施設へ来訪の際、要望 意見などを聞くようにしている。口頭で言いづらい方は、玄関に苦情、意見、相談箱を設置、重要事項説明書の中に外部の相談窓口の連絡先を記入し、表せる機会をもうけている。	家族には、利用者の状態を手書き文書で送付したり、訪問時に、ゆっくり話しあい、意見や要望を聞いている。訪問が困難な家族には電話で連絡を取り、意見交換をして、要望等を引き出している。それらを、毎月の会議で検討し、出来ることから対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度、管理者 ケアマネ 全職員で会議を行い、利用者の方 個々のサービスのあり方について議論すると共に、職員の個々の気持ちを聞くようにしている。話し辛い場合は、個別に聞く機会を設け、反映に繋がるよう、努力している。	管理者は現場も担当し、職員の気づきや提案を、その場で聞ける体制である。毎月の職員会議も勤務として取り扱い、全職員が出席し、職員間の連携を保つ取り組みとなっている。「風通しの良い職場」を全員で作ることで、安心して勤務ができ、職員の定着率も良い。	管理者は、実践力を高める研修の取り組みに前向きであり、職員の資格取得者が増えている。職員の学びが、利用者サービスの質の向上のつながるよう、具体的な取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者 管理者は同一人物であり、日々一緒に仕事をしている為把握している。全職員が働き易い職場であるよう常に考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望の職員には、それに必要とする費用を事業所が負担している。又個々の状態に応じ、レベルアップできるよう、進めることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に交流はないが、相談できるあいてはいる。今後他のグループホームの方と交流が持てるよう努力していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、趣味 嗜好シート フェースシートの記入をお願いをすると共に、本人さんとの面接を行い、意思疎通が可能であれば、要望を聞きながら良い関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り、家族状況を把握すると共に不安、困っていること要望に耳を傾け、家族の方と一緒に利用者の方を支えて行ける良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方の話しを元に、管理者 全職員 ケアマネジャーと、話し合い、あらゆる方向性を考え、家族の方に再度話をさせて頂きながら、より良い選択が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家と職員が思ってくれるよう、出勤時は「ただいま」帰宅時は「いってきます」の言葉を使っている。その言葉も定着し、今では、利用者の方々も「いってらしゃい」「おかえりなさい」と声を掛けて下さる良い関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会時、本人さんの状態説明を行ない、それを元に、要望 考え 不安に思っている事に耳を傾け、色々な選択肢の中から、より良い方向性を共に考えながら行っている。遠方の家族の方には、電話や手紙を使用し相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々に差は有るが、友人と外出される方も見える。ホームとしては、馴染みの方の受け入れはいつでも可能である。	個人の生活歴や、個別の事情に配慮し、家族、親族、地元の人々などに連絡をしたり、来訪の橋渡しをしている。馴染みの人・物・場所は、家族とも相談しながら本人の気持ちを大切にして関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合いは、常日頃見られる、足が不自由な方の食後の食器を、歩行可能な利用者の方が進んで洗い場まで運んで下さるなど、支えあう姿が見られると共に、日によっては、仕事の取り合いでもめる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までは看取りの方ばかりだった為、家族の方の心のケアを大切にしてきた。退所される利用者の方が今後みえたら、関係を断ち切るのではなく相談に応じれるよう努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な人であれば、日常生活の中で本人とコミュニケーションを取りながら、本人の希望に添った暮らしが出来るよう努め、困難な人の場合は、表情 仕草等を見ながら希望、意向に努める。場合によっては、家族の方と話し合う。	趣味・特技・嗜好確認シート、フェイスシート、診断書等各種シートを活用して、日常生活での会話、個別ケアの場で、利用者の思いや意向を把握し、一人ひとりの希望を優先し、実現に努めている。また家族からも聞き取り、職員間で知り得た情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族、ケアマネージャーの方に、生活歴、趣味、特技等を聞き、これまでの生活とあまり変化の無い暮らしが出来るよう、現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の状態を記録に残し、日々の状態の移り変わりを見ている。それぞれの生活の中で出来ることをお願いするなどし、その日の状態に合った過ごし方をしてもらい現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度の会議で管理者、ケアマネージャー、全職員が集まり話し合いを行い、ケア計画に活かしている。御家族の参加は難しいが、個々に連絡を取り、意見を聞き相談させて頂きながらケア計画に活かしている。	職員は、日々の申し送り時に、介護記録、家族・利用者の要望等や利用者の状態を詳しく把握し、情報を共有している。医療情報が必要な時は、医師の意見も得て、全体で介護計画を作成している。計画作成後も家族との意見交換を大切に、利用者の状態変化時は柔軟に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人ごとに、日々の生活を出来る限り、細かく記録に残し、全職員が把握し順次対応出来るようにしている。記録を元に、話し合いを行い、実践に活かすと共に計画の見直しにも活かしている。記録については家族の方に限り見ること可能。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に、利用者の方の状況によっては、居室の移動があるかもしれない事を伝え、利用者の方の状況に応じ、職員が一番目が届く場所へ居室も変え、常に状態把握し柔軟な対応が出来るよう心掛けている。		

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方や民生委員の方達とは交流はあるが、他の地域資源の活用は出来ていない。地域のイベントなどは出来る限り参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば可能。但し家族の方が付き添いにて受診。施設としては、契約医院があり、昼夜問わず安心して医療を受ける事が出来る。状態によっては整形外科、歯科も往診してもらう事が出来る。	入居契約時に、協力医の方針を説明し、利用者は協力医をかかりつけ医として選択している。協力医とは、24時間の連絡体制を整え、定期的な訪問看護もあり、医療連携は充実している。協力医で無い場合は、家族が受診を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護の方が来て下さり。職員の気づき、利用者一人ひとりの状態を伝え相談し、アドバイスを受けている。利用者の方の状態によっては、常に連絡をとり、指示を頂ながら利用者の方が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、入院先に利用者の方の今までの状況、状態の説明を行なうと共に入院中は、面会、病院での経過を聞き、退院時受け入れが可能なのか相談させて頂き。可能な場合、退院後も病院との関係を築きながら支援してる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行ない、本人、家族の方の考えを聞くと共に、重度化、終末期を向かえた場合には、本人、家族 主治医、職員と話し合いより良い支援が出来るよう努めている。	入居時に、重度化や終末期の対応について事業所の方針を説明し、本人家族の希望を聞いている。医療行為が伴う場合は、状態変化を早期に受け止め、家族・医師・関係者で話し合い、終末期の支援体制を整え対応している。これまでに多くの利用者の終末期を支援し、対応した職員のフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月一度の全職員参加の会議時、急変、事故発生時の手当て、対応について指導し連絡体制も整えている。今後も実践に活かせるよう訓練を重ねたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は勿論、他の災害に備え定期的に避難所、避難場所、緊急時の対応方法の確認。訓練を行っていると共に全職員に個々でシミュレーションを行うようお願いしている。近所の方の参加は難しいが、何かの時には、助けて頂けるようお願いしている。	夜間想定を含めた防災訓練を実施している。避難場所への誘導、連絡網、緊急時対応等を具体的に確認している。水害や地震時の対応は、関係者の指導を受けて実践し、一定の方針が出来ている。懐中電灯、蛍光タスキ、タオルなどを玄関に置き、ヘルメットも準備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格などを把握して、その方に合った対応を心掛けている。トイレ誘導やおむつ交換の際、周りに分からない様配慮し誘導を行う(本人がみんなの前で訴えた場合は別)名前の呼び方なども本人さんの希望に合わせ呼べるよう、自前に聞くなど考慮している。	利用者の人格を尊重し、本人にとって心地よい呼ばれ方を確認し、職員で共有して問いかけ方法に配慮している。利用者それぞれの個性を把握し、安心して過ごせるよう、支援方法や傾聴について、日々職員間で話し合い、笑顔での対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯たたみ、居室の掃除、茶碗拭き、テーブル拭き、新聞折や袋たたみ、雑誌を見る方テレビを見る方、歌を聴く方何をして頂く時でも無理時するのではなく、自分で選択して頂くようにし、自分らしく生活できるよう働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事 入浴は、時間は決まっているが、例えば、お風呂に入りたくないと言われる方など、時間をおき、もう一度声を掛け、それでも、嫌がられる方は、次の日にするなど、出来る限り利用者の方の希望に添った生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、歩行可能な方は、自分で選び、歩行困難な方は、何着か用意し選んで頂く。歩行可能な方の中には、朝 夕と服が違う事もある。髪型も本人さんの希望に合わせ散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事作りをしている方はいないが、野菜の皮をむく事や炒める作業を毎日ではないが可能な限り行っている。後片付けは身体的に無理な人、やりたくない方様々だが、何人かの方は、食器、他の方の食器を洗い場に運んで下さる。布巾を持って行くと机を拭いて下さるなど自然なようすが見られる。	庭で作った野菜や、旬の野菜を取り入れた食事を、朝昼夕と3食手作りで提供し、職員も同じ物を食べている。調理は職員が行っているが、下ごしらえや後片づけを、積極的に手伝う利用者の姿もあり、笑顔と笑い声が響いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取の記録、利用者の方の体調に応じて、水分量のチェックも行なう。食事は、常食 刻み食 半ミキサー食 ミキサー食、水分にトロミ使用など、利用者の状態に応じて摂取できるよう配慮している。毎日10時 15時に水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝 夕、自分の歯、義歯、歯が無い方、利用者の状態に応じて、職員見守り、介助の元、口腔ケアチェックを行なっている。状態によっては、毎食後口腔ケアを行う方もみえ、歯科の往診を受けている方もみえる。		

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターン、身体の状態を把握し、その方に合った支援を行っている。排泄の感覚が長い人、失禁の多い人は声掛けし排泄を促し、夜間など排泄が近い人、身体の状態に合わせ、ポータブルを使用するなど、自立を促す支援を行っている。	1日の内、常ではなく、時々でも排泄の訴えがある人や、訴えが無い人でも、出来る限り、トイレでの排泄を支援している。水分摂取、排泄の記録を残し、利用者それぞれのパターンを把握し、トイレでの排泄が多くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、散歩は勿論、体操等の運動を行いながら、利用者の方の身体の状態に応じ、予防に取り組んでいる。それでも、困難な場合は、主治医に相談を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に入れない利用者にはシャワー浴で対応、それも困難な場合は清拭、部分浴などの対応をしている。入浴を拒否される方も多々みえるが、時間を措きもう一度超声掛けを行う、又日を改めるなど出来る限り利用者の希望に添えるようにしている。入浴剤などを使用し楽しみにして見える方も見える	浴室、洗面所、トイレがリフォームされ、段差のない明るく広い空間ができ、心地良い入浴環境となった。残存機能の維持につながる動作を、入浴中にもリハビリとして取り入れ、職員が見守りながら、楽しく、安全な入浴を支援している。入浴は毎日可能な体制である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調が悪そうな時は居室のベッドで休んでいただくなどの対応をしている。居室の温度、湿度調整を行い、気持ちよく睡眠をして頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や、薬剤師の説明を聞き、全職員で共有した上で服薬の見守り、介助などを行っている。症状に変化が見られたときは、すぐに医師に相談を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯たたみ、食器拭きなど、出来る範囲でおこなっている。編み物、ゲーム、手、足の運動、本を好きな方は本を買って見られる方など、一人ひとりにあった気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は希望に添った外出の支援は難しいが、公園の散歩、外でバーベキュー、流しそうめん、秋涼みや外食、地域のお祭りの参加などの支援を行っている。御家族の休日には、迎えに来て下さり一緒に外出される事もある。	午前中に、職員1人と利用者1~2人で、梅林公園への散歩を日課としている。午後に入浴後に、夕涼みがてら公園に行く事もある。岐阜祭りや長良川の花火大会なども、車椅子で見物スポットまで出かけている。外食を兼ねての外出支援も行っている。	

岐阜県 グループホーム ひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の状況では、一人も所持されていない。閉まった場所が分からなくなったり、家族の方の希望も有り所持されていないが、外出時や、子供さんの誕生日などで、お金が必要なときなど、利用者の方と相談しながら使用できるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援する用意はあるが、身体的に無理な方や、頻りに面会に来てくださる方もみえ、今現在は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所に応じて季節の花や飾りを飾ったり、庭には野菜や花を植えたりし季節を感じ取れるよう配慮している。又居心地良く過ごして頂く為に、居室の温度 湿度 光 臭気 清潔等に気をつけている。	空調が整備されているが、各部屋の掃き出し窓からの採光や、外からの風通しもよく、心地よい共用空間になっている。掃除が行き届き、清潔である。利用者用の掃除機もある。季節の花や作品が飾られ、利用者の多くは、日中、居間や食堂でくつろぎ、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす方がほとんどだが、居間にもソファ、テレビを置き、利用者の方が自由に過ごせるように配慮している。毎朝の新聞や雑誌も自由に見られるよう置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方と相談のうえ、出来る限り新しい物ではなく、これまで馴染まれ親しんだ物を持参して頂き、少しでも、今までの生活と大きな変化がないよう配慮している。	入居前に家族と相談し、小さな仏壇、思い出の写真、小物や鏡など、馴染みの品を持ち込み、利用者の使いやすいように配置の工夫をしている。ベッドも持ち込みができるが、レンタル料を支払って、退去まで使用できる貸しベッドが利用できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場や、トイレには、分かり易いように目印を付け、施設の廊下は、リビング、キッチンと一直線になっている為、利用者には、職員の存在が分かり易く、職員も利用者の方の行動を見ることが出来、安心である。		